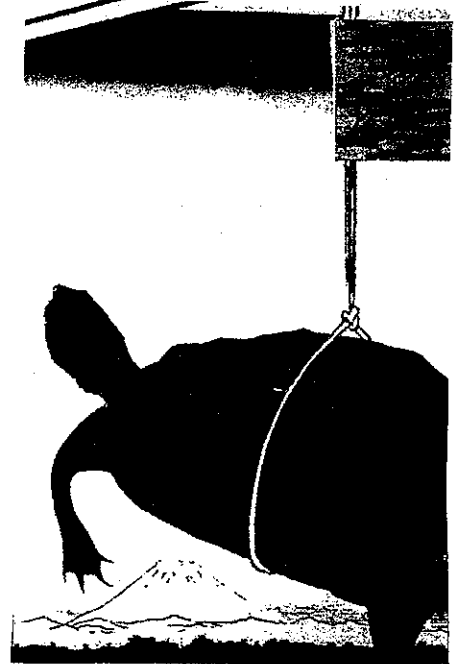


蔦重・馬琴・写楽・越谷新聞

令和7年9月23日・(10月12日一部変更)第9号・写楽から絵画を楽しむ号・発行・旧日光街道・越ヶ谷宿を考える会

四大浮世絵師の一人・写楽と越谷はご縁濃し！

四大浮世絵師というと、歌麿、写楽、北斎、広重～ですね。あなたのお好みは誰ですか。歌麿の美人画。北斎の富士山。広重の東海道。そして、写楽は人物画というより、「顔の絵」ですよ。



歌麿・当時三美人～三人の目の描き方が少しずつ違います

写楽・市川鯉蔵の竹村定之進～役者の堂々の風格？を表す

広重・深川万年橋～吊るされた亀が富士の引き立て役に～

北斎・尾州不二見原～桶屋の桶の中に富士が見える発想～



蔦重さん直伝「浮世絵楽しみ方」忘れぬうちに、展覧会を見に行きましょう

①蔦屋重三郎と版元列伝 <11月3日(祝)まで>

浮世絵師とタッグを組んで浮世絵を発表した「版元」たちの作品を紹介

=太田記念美術館=「原宿駅」表参道口から徒歩5分 050-5541-8600

・写楽、歌麿作品 ・浮世絵専門美術館 一般1200円 <月>休館

②北斎をめぐる美人画の系譜 <11月24日(振)まで>

=すみだ北斎美術館=「大江戸線・両国駅」A3出口5分、「総武線・両国駅」東口9分 03-6658-8936

・北斎作品美術館 一般1500円 65歳以上(確認物要)1000円 <月>休館

③ロックフェラーコレクション・花鳥版画展～北斎・広重を中心に～ <2026.1.17(土)～3.1(日)>

=千葉市美術館=「JR千葉駅」から徒歩15分 043-221-2311

・ロックフェラーコレクションの中から選りすぐり約160点

・日本画に強い美術館 一般1800円 <月>休館

④トワイライト、新版画ー小林清親から川瀬巴水までー <2026.2.19(木)～5.24(日)>

=三菱1号館美術館=JR東京駅徒歩5分 050-5541-8600

・スミソニアン・国立アジア美術館コレクションの里帰り

・最後の浮世絵師のみせた浮世絵。最後の輝きとその継承

・一般2300円(オンライン2100円) <月>休館

⑤映画「おーい応為(おうい)」 北斎の娘(応為)が主人公・長澤まさみ主演・10月17日封切

注～A 閉館時間は各館により相違。 B 《050-5541-8600は共通のハローダイヤル》



写楽とは 何者だったのか

写楽の実像

写楽と称する絵師は豪華な役者絵二十八図を同時出版して突然登場した。第二次世界大戦以後、無名の素人絵師の仕事とは考えられないとして、別の芸術家が写楽を名乗ったのではないかと、さまざまな別人説が出されてきた。

寛政十年（一七九八）頃、大田南畝（61頁）が著した『浮世絵類考』を祖本として、式亭三馬が「写楽号東周斎、江戸八丁堀二住ス」と補記を加え、「写楽は阿州侯の士にて、

俗称を斎藤十郎兵衛といふよし、栄松斎長喜老人の話なり」の追記も行われた。天保十五年（一八四四）に神田の町名主で考証家の斎藤月岑が『増補浮世絵類考』の写楽の項を「江戸八丁堀に住む阿波藩の能役者斎藤十郎兵衛」とする記述にまとめた。

さらに、三代目瀬川富三郎が著した『江戸方角分』に、浮世絵師写楽斎が八丁堀地蔵橋に実在した記載のあることが報告され、斎藤家の菩提寺の過去帳から、十郎兵衛が文政三年（一二〇）五八歳で没したことも判明した。

現在では、これらをもとに、阿波徳島藩主蜂須賀家お抱えの能役者斎藤十郎兵衛（一七六三～一八二〇）が東洲斎写楽であるとする説にほぼ落ち着いている。

もっと知りたい 東洲斎写楽 田沢裕賢著 東京美術 2024 刊から

主な写楽別人説（昭和64年までの分）		
能役者のちに歌舞伎堂艶鏡	提唱者	発表年
能役者・斎藤次左衛門	ユリウス・クルト	明治43年
能役者・春藤次良兵衛	鳥居龍藏	大正14年
某アマチュア絵師	邦枝完二	昭和4年
某貴人	野口米次郎	昭和5年
葛屋重三郎	森清太郎	昭和11年
円山応挙	横山隆一	昭和31年
能役者・斎藤次左衛門	田口卯三郎	昭和32年
阿波藩家老の伴・幸礼俊十	松本清張	昭和32年
谷文晁	小島政二郎	昭和36年
葛飾北斎	池上浩山人	昭和37年
能役者・春藤次左衛門	横山隆一	昭和38年
某能役者	今東光	昭和39年
十返舎一九他共同制作	小野忠重	昭和39年
時絵師・飯塚桃葉社中	瀬木慎一	昭和40年
鳥居清政	中村正義	昭和41年
北尾派絵師	君川也寸志	昭和42年
歌川豊国	林美一	昭和42年
酒井抱一	石沢英太郎	昭和43年
葛飾北斎	向井信夫	昭和43年
能役者・土左衛門の次郎太	由良哲次	昭和43年
葛屋重三郎	大岡信	昭和43年
米松斎長喜、その後司馬江漢等	榎本雄斉	昭和43年
谷素外	福富太郎	昭和44年
一筆斎文詞	酒井藤吉	昭和44年
阿波藩絵師・矢野典博	出井祐治	昭和45年
葛屋工房	瀬尾長	昭和52年
山東京伝	鈴木敏夫	昭和55年
葛屋重三郎	谷峯蔵	昭和56年
葛屋重三郎の義父	阿部清	昭和56年
秋田蘭画絵師・近松昌栄	杉本章子	昭和58年
喜多川歌麿	高橋克彦	昭和58年
十返舎一九ら共同制作	石森孝太郎	昭和58年
中村此蔵	宗谷真爾	昭和59年
歌川豊国	池田満寿夫	昭和59年
写楽は写楽	梅原猛	昭和60年
オランダ人某	瀬木慎一	昭和60年
狂言作家・篠田金治	中島節子	昭和60年
喜多川歌麿	渡辺保	昭和62年
欄間の彫師・指六	土淵正一郎	昭和62年
写楽は3人	六代目歌川豊国	昭和63年
	小山鶴翁	昭和64年

写楽 中野三敏著 中公新書 中央公論新社 2007 刊から

☆写楽と十郎兵衛 記述の一致

①右の写真は越谷市の法光寺さんがお持ちの「斎藤十郎兵衛」の過去帳の一部です。「文政三庚辰年三月七日 太乗院覚雲居士 八丁堀地蔵橋 阿洲殿御内 斎藤十良兵衛 変 行年五十八歳千住二テ火葬」と書いてあります。

②斎藤月岑の「増補・浮世絵類考」には「天明寛政年中の人 俗称斎藤十郎兵衛、居、江戸八丁堀に住す、阿波侯の能役者也一廻りに雲母を摺りたるもの多し」とあります。

別に書かれた①と②の記述の一致が写楽の実在の証拠です

「写楽の存在」「写楽＝斎藤十郎兵衛」は絶対となりました。

法光寺過去帳
該当箇所

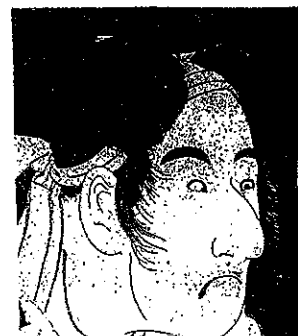
写楽 中野三敏著 中公新書 中央公論新社 2007 刊から

写楽と越谷のもう一つのご縁

写楽と越谷の間には「過去帳の大きなご縁」に比べると、小さなものでは
ありますが、他にもご縁があります。それは、^{はっちょうぼり}八丁堀地蔵橋の写楽の住ま
いの隣に^{むらたはるみ}村田春海という国学者が住んでいて、そこに越谷^{おんま}恩間の国学者・
渡辺^{こうよう}荒陽の娘・^{たせこ}多勢子が養女に入り、多勢子は隣の写楽の息子を可愛がっ
て、その後、自分の養子として「^{むらたはるみ}村田春路」という名前を付け、村田家の
いわば「家業」の国学者の跡を継がせているというご縁なのです。多勢子
の実家である「^{おんま}恩間」と、法光寺さんが築地から引っ越してこられた
^{さんのみや}三野宮とはすぐご近所にあるという不思議なご縁。

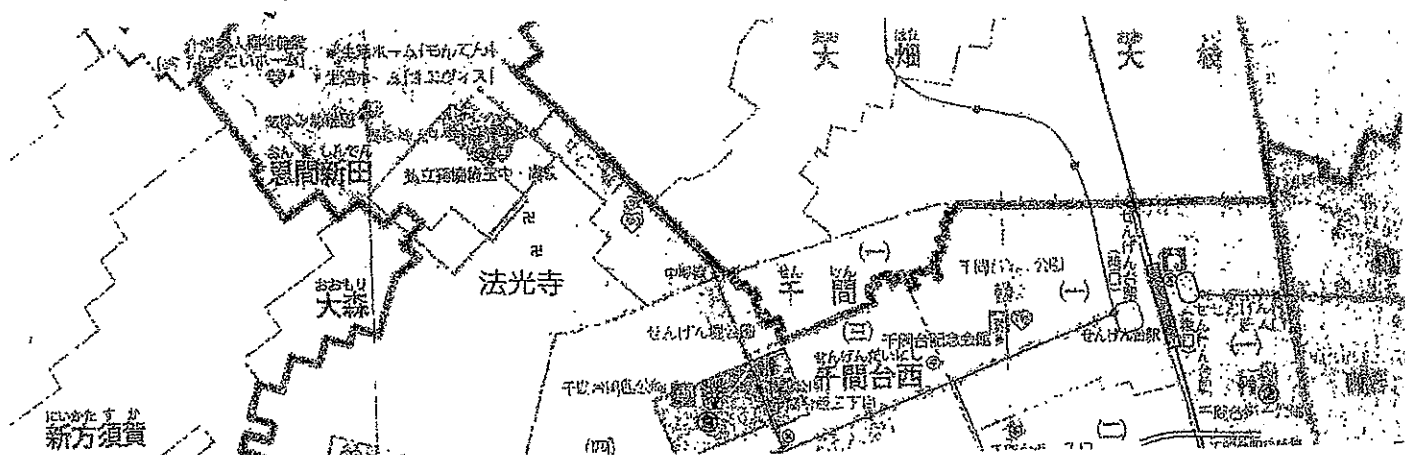


写楽・
市川鯉蔵の竹村定之進



写楽・
二代目坂東三津五郎の石井源蔵

写楽の菩提寺・法光寺は越谷のここに～



斎藤十郎兵衛の書かれた過去帳をお持ちのお寺・法光寺さん
写楽の記念碑と阿波藩のゆかりの蜂須賀桜が境内に並んでいます
蜂須賀桜は早咲きですので、関東の河津桜の満開ごろにおこしく下さい